

教育課程等の概要(事前伺い)

教育課程等の概要(事前伺い)														
(医学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	研究・生命倫理概論	1前	2			○			10			3		
	研究方法論概論	1前	2			○			1	3				
	実験動物学概論	1前	2			○				1			2	
	情報医学概論	1前	2			○			1					
	分子細胞生物学概論	1前	2			○			14					
	小計(5科目)	—	10			—			26	4		5		
プロジェクト	健康長寿医学概論	1通		4		○			27					
	亜熱帯医学概論	1通		4		○			11					
	社会医学概論	1通		4		○			6			1		
	再生・再建医学概論	1通		4		○			14					
	小計(4科目)	—		16		—			40			1		
専門科目	システム生理学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	放射線診断治療学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	脳神経外科学特論	2後～3前		2		○			1			4		
	眼科学特論	2後～3前		2		○			1			3		
	育成医学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学特論	2後～3前		2		○			1			4		
	精神病態医学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	遺伝医学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	先進検査医学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	分子解剖学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	ゲノム医学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	人体解剖学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	分子・細胞生理学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	薬理学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	胸部心臓血管外科学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	麻酔科学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	整形外科学特論	2後～3前		2		○			1			3		
	泌尿器科学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	顎顔面口腔機能再建学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	救急医学特論	2後～3前		2		○			1		1	1		
	臨床薬理学特論	2後～3前		2		○			1		1	2		
	臨床薬学特論	2後～3前		2		○			1			2		
	医化学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	生化学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	腫瘍病理学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	細胞病理学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	衛生学・公衆衛生学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	法医学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	内分泌代謝・血液・膠原病内科学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	循環器・腎臓・神経内科学特論	2後～3前		2		○			1			3		
	消化器・腫瘍外科学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	女性・生殖医学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	微生物・腫瘍学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	細菌学特論	2後～3前		2		○			1			3		
	寄生虫・免疫病因病態学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	皮膚病態制御学特論	2後～3前		2		○			1	1		2		
	免疫学特論	2後～3前		2		○			1	1		1		
	感染症・呼吸器・消化器内科学特論	2後～3前		2		○			1	1		3		
	生体防御学特論	2後～3前		2		○			1	1				
	感染免疫制御学特論	2後～3前		2		○			1					
	小計(40科目)	—		80		—			40	30	1	72		
研究指導科目	特別演習(研究室ローテーション)	1後～2前	4				○		40	30	1	72		
	大学院特別研究I	2通	4				○		40	30	1	72		
	大学院特別研究II	3通	4					○	40	30	1	72		
	小計(3科目)	—	12			—			40	30	1	72		
合計(52科目)			22	96		—		40	30	1	72			
学位又は称号		博士(医学)		学位又は学科の分野				医学関係						

I 設置の趣旨・必要性

琉球大学大学院医学研究科博士課程は、「医学の分野全般において自立して研究活動を行う高度な研究能力と専門的かつ幅広い学識を備え、社会のニーズに対応した教育研究及び診療の分野で指導的役割を担う人材育成」を目的として、昭和 62 年に設置された。その後平成 15 年に、既設の 3 専攻を医科学専攻と感染制御医科学専攻（独立専攻）の 2 専攻に再編した。

医科学専攻においては、世界屈指の長寿地域であった沖縄県において短期間に健康長寿の崩壊が進行している現実を踏まえ、従来から環境長寿医科学コースを研究科の中核のひとつとして位置付け、研究者層の充実と研究の活性化を図ってきた。さらに、再生医学や移植医療の発展を基盤とした機能再生医科学コース、及びゲノム情報やコンピューターサイエンスに支えられた先進情報医科学コースを加えた 3 コースで、大学院生の教育指導を行ってきた。また、感染制御医科学専攻では、感染症対策、環境衛生の整備、ウイルス発癌対策などの医学的介入により沖縄の医療に貢献してきたという実績を有している。

10 年前と比較してゲノム医学や発生再生医学の発展は目覚ましく、現在では専攻内の限られた講座による教育研究だけでは、学際的で高度化した医学研究や先進医療に対応した人材育成を行うことが困難になりつつあり、研究分野間の有機的な連携による教育体制や包括的で多様な知識や技術獲得を促す学生指導がなければ、国際的に活躍できる人材の育成は難しく、大きな研究の発展が望めない状況になっている。また、日増しに複雑化・高度化の様相を見せる医学領域においてリーダーシップを発揮する高度な人材を育成するには、分野横断的な大学院プログラムを用意することが必須の課題となっている。

この改組によって、異なる研究分野が流動的に協力して大学院生の教育研究を進める体制を組織することにより、現行体制では実現が難しい研究指導の分野横断的展開を確保する。大学院生に幅広い分野の教育を受けさせ、広い視野から自身の研究を見直す場を与えることにより、従来から目指してきた高度の専門性に加えて、より広範な学識を付与し、将来の医学研究・先端研究を開拓しうる次世代を担う優秀な人材を育成する。

なお、この改組は、琉球大学の第 2 期中期目標「大学院課程の目的に沿った人材育成を実現する教育課程を編成する」、「学位の質の確保と豊かな学識を養い国際的に活躍する人材を育成するための学修指導体制を確立する」及び平成 23 年 1 月 31 日の中央教育審議会「グローバル化社会の大学院教育 ～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」に沿ったものである。

本研究科では、医学教育研究のダイナミックな変化に対応しながら新規知見を発信できる医学研究者、医療人を輩出するために、自己改新力（self-renovation ability）と生涯持続力（sustainability in total life）を持った優れた人材を育成する。具体的な人材は以下のとおりである。

1. 健康長寿医学が関連する分野において、ゲノムから個体集団のレベルで研究を行い、臨床応用や地域医療の質の向上に貢献できる人材
2. 亜熱帯医学が関連する分野において、疾病・感染症を理解し種々の研究手法によって研究を計画、遂行、評価できる人材
3. 社会医学が関連する分野において、国際的に通用する科学エビデンスを生む臨床疫学研究を主導できる人材
4. 再生・再建医学が関連する分野において、幹細胞生物学を基盤にがんの治療開発と再生医療に貢献できる人材

次頁に人材育成の概要（図 1）とモデルケース（図 2）を示す。

□ 自己改新力と生涯持続力を持った人材を育成するための教育プログラムを創設

- 多講座連携プロジェクト参加型リサーチワーク、コースワークを導入
- プロジェクトに関連した科目を新設
- 共通科目、プロジェクト関連科目、特別演習(研究室ローテーション)、大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ(演習、実習)を必修科目とし体系的なコースワークを設定
- 中間評価のための研究発表会を実施
- 副指導教員制度を導入



<アウトプット>

● 大学院教育のパラダイムシフト

従来から目指してきた高度の専門性に加えて、より広範な学識や技術を付与して、将来の医学研究や先端医療を開拓しうる次世代を担う優秀な人材を育成する。

<修了後の進路>

【現行】

基礎・臨床医学研究者、臨床専門医



【改組後】

基礎・臨床医学研究者(リーダー)、高度臨床医(リーダー)、多様連携医療推進医、地方・離島総合診療医、医療行政職(中央・地方)、医療関連産業研究員、海外派遣調査・診療医

- より広範な学識や技術、臨床能力を有する人材
- 本研究科の使命遂行に貢献しうる人材
- 研究成果を世界展開できる人材
- 医療の高度化に貢献できる人材
- 医療関連産業を活性化できる人材

図1. 医学のダイナミックな変化に対応しながら新規知見を発信できる医学研究者・医療人の育成(概要)

健康長寿医学分野における優秀な医学研究者・医療人を養成するための教育プログラムを創設

□ プロジェクトをベースとした体系的なコースワークを導入

<共通科目(必修5科目)>

- 研究・生命倫理概論
- 研究方法論概論
- 実験動物学概論
- 情報医学概論
- 分子細胞生物学概論

<プロジェクト関連科目(必修1科目)>

- **健康長寿医学概論**

<特別演習(必修1科目)>

- 研究室ローテーション

<大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ(必修2科目)>

- 演習・実習

<専門科目(選択2科目)>

- 内分泌代謝・血液・膠原病内科学特論
- 分子・細胞生理学特論 等



健康長寿医学分野における優秀な医学研究者・医療人を育成

<修了後の進路>

- 基礎・臨床医学研究者(リーダー)
- 高度臨床医(リーダー)
- 地方・離島総合診療医
- 医療行政職(厚労省医官等)
- 薬品・化学系の産業研究員 等

図2. モデルケース
健康長寿医学分野において臨床応用や地域医療の質の向上に貢献できる人材の育成

II 教育課程編成の考え方・特色

本研究科では、①沖縄の健康長寿に関する研究、②亜熱帯特有の疾病に関する研究、③沖縄の社会医学・疫学に関する研究、及び④再生・再建医学に関する研究の4つの研究を、本研究科の柱となる主要なプロジェクトとして推進することとしている。

以下に各プロジェクトの概要を示す。

①沖縄の健康長寿に関する研究：間近に迫っている超高齢化社会の到来を見据えた健康長寿社会復興モデルの形成において、医学的側面から琉球大学大学院医学研究科が果たすべき役割は極めて大きい。かつて世界屈指の長寿地域であった沖縄が最近10年弱の短期間に健康長寿が急速に崩壊しているという国際的に見ても極めてユニークな地域特性を最大限に活用し、生体老化の分子メカニズムやライフスタイルや食習慣の乱れがもたらす健康障害の病態メカニズムを、ゲノム、分子、細胞、臓器、個体、集団の各レベルから有機的、総合的に研究する。

②亜熱帯特有の疾病に関する研究：亜熱帯地域特有の疾病、感染症についてその病態・発症要因を解明するとともに、ゲノムサイエンス、分子・細胞生物学、病理学、薬理学、実験動物学的手法を基盤に、新規の治療・予防手段、ワクチン開発などの臨床応用を目指す。

③沖縄の社会医学・疫学に関する研究：沖縄県で急増を見せる生活習慣病を含めた心身の諸健康問題（メタボリック症候群、糖尿病、慢性肝疾患、閉塞性肺疾患、脳・心血管系疾患、自殺）は本県の伝統ある健康長寿を揺るがす勢いにあり、生物学的側面だけでなく心理・社会的側面（食生活・環境要因・社会状況の大幅な変化）の影響が色濃い点も本県の特徴といえる。本プロジェクトでは、良好な健康寿命を損なう有力な社会・環境因子を抽出・解明する疫学研究や、人口流動性の少ない離島を抱える地域特性を生かした形での介入研究、また、生物-心理-社会的側面を包含する研究分野横断的な総合プロジェクト型研究を機動的に遂行する。

④再生・再建医学に関する研究：精緻で極めて高度な構造と機能を有するヒトの体に発生する機能障害、がん、老化に関する治療戦略には、分子生物学と細胞生物学の最新の知識を踏まえた細胞、組織、臓器の構造とその機能の理解、修得は欠かせない。幹細胞生物学を踏まえて、がんの増殖、転移、浸潤に関する新規治療法を開発し、細胞から組織・臓器を作る再生医療の実現を目指す。

これを踏まえつつ、本研究科では、「I 設置の趣旨・必要性」で掲げた人材の育成を果たすため、進歩の著しい医学分野により柔軟に対応できるようプロジェクトベースの講座間連携教育体制による教育を実施する。

そのため、教育課程においては、以下の図3と図4に示すように、大学院生が多様な講座間の連携で活動しているプロジェクトに参加し、最新の技術や知識を修得していく教育プログラムとし、講義やセミナーによる体系的なコースワークと、幅広い知識を修得させるように多講座連携で推進しているプロジェクトに携わりながら専門的技術・知識を学ぶリサーチワークの2つを特色とする。

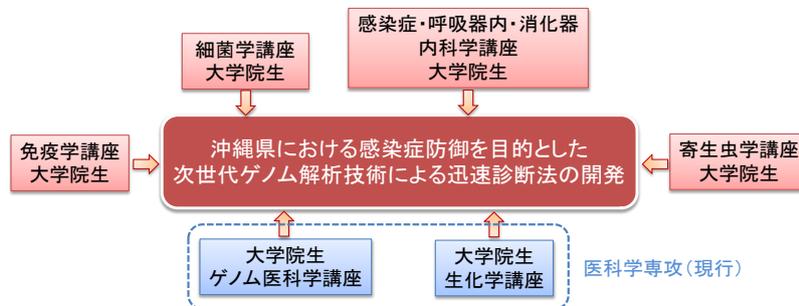


図3. プロジェクトベースの講座間連携教育体制の例
(亜熱帯特有の疾病に関する研究)

かつての感染症研究と現在の医科学の進歩には隔世の感があり、感染症研究のアプローチ自体がゲノム医科学、内科学、生化学などの各分野との広く深い学際的な手法になってきている。現行の、大学院生の指導体制に関して感染制御医科学専攻が独立した組織では、多様な研究知識や手技の修得は見込めない。講座間の壁を破った教育の枠組みの構築が必要である。

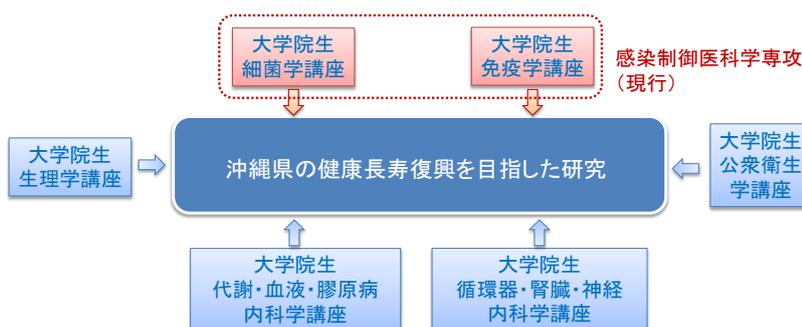


図4. プロジェクトベースの講座間連携教育体制
(健康長寿に関する研究)

沖縄の健康長寿復興を目指した研究を行っているが、このプロジェクトには生理学、内科学、社会医学、免疫学、細菌学などの講座の教員のもと、大学院生がプロジェクト参加し複数の指導教員から技術指導や科学的思考のトレーニングを受ける必要がある。現在の医科学専攻の枠を取り払った教育体制を整備しなければならない。

沖縄の地域特性やアジアにおける国際貢献を見据えて、前述の本研究科が育成すべき人材及び研究プロジェクトに対応した健康長寿医学、亜熱帯医学、社会医学及び再生・再建医学の4つのコースを設定し、入学時に大学院生に選択させる。

教育課程における主な取組は以下のとおりである。

(1) コースワーク

① 共通科目

入学後のコースワークにおいて、研究・生命倫理概論、研究方法論概論、実験動物学概論、情報医科学概論、分子細胞生物学概論の5つの科目を共通の科目として必修とし、研究者の素地を涵養する。研究・生命倫理概論の講義名は現行の生命倫理科学概論の講義名を改めたものであり、研究倫理教育の充実を明確化する意図がある。分子細胞生物学概論は、現代の医学研究に分子細胞生物学は必要不可欠であることから新たに追加した。これらの履修によって、大学院生は課題設定、方法論、倫理観等の幅広い基礎的能力や俯瞰的なものの見方を修得する。

② プロジェクト関連科目

健康長寿医学概論、亜熱帯医学概論、社会医学概論あるいは再生・再建医学概論を選択必修科目として、その後の研究指導へと有機的につながる専門的知識と能力を修得させる。

例えば、亜熱帯医学概論では、亜熱帯特有の疾病・感染症についてその病態・発症要因を理解させるために、感染症内科学、細菌学、寄生虫・免疫病因病態学、免疫学、感染免疫制御学、生体防御学、ゲノム医科学、分子細胞生物学などの講義を提供し、これを基に当該研究を計画、遂行、評価できる能力を修得させる。

③ 特別演習（研究室ローテーション）

コースワークの充実を目的として、平成 24 年度に研究室ローテーション制度を導入した。この制度は、大学院生が本人の科学的興味あるいは研究の関連性に基づいて、他の研究室の研究者カンファレンスや論文抄読会に自由に参加出来る制度である。今回の改組では、これを必修科目（特別演習）として設定する。研究室ローテーションは、研究プロジェクトベースで行う。

この制度の導入により、大学院生が複数の講座において自らの研究分野以外の幅広い知識を獲得出来るようにする。さらに、研究者間のコミュニケーションが図られ、共同研究が活性化・円滑化されることをねらう。

④ 大学院特別研究Ⅰ及びⅡ

指導教員のもと、大学院特別研究Ⅰ及びⅡ（演習、実習、いずれも必修科目）を履修する中で、自ら研究課題を発見し設定する能力、仮説を検証する能力、他人を納得させるためのコミュニケーション能力、国際性及び倫理観を修得させる。

大学院特別研究Ⅰ（演習）では、関連する科学論文等を題材として客観的評価の方法、批判的思考法を修得させ、さらにそれを他人に紹介できるプレゼンテーション能力を養う。

大学院特別研究Ⅱ（実習）では、学位論文とする研究課題の発見と設定する能力、矛盾しない仮説の設定とその検証、実験及びデータ解析能力、国際性と倫理観、さらには他人を納得させるコミュニケーション能力を修得させる。

⑤ 専門科目

現行の専門科目を精査し、医学の進歩に対応した効率的で質の高いコースワークとするために見直しを行った。専門科目により、大学院生の科目選択の柔軟性を確保し、多様な学識、方法論や技術を修得させる。

(2) リサーチワーク

リサーチワークにおいては、大学院生は多講座が有機的な連携を図りながら推進しているプロジェクトベースの研究グループに参加することにより、近年の生命科学の進歩に対応した多彩な実験手技、方法論や知識を修得することが可能になる。プロジェクトベースにすることにより、指導教員の側も講座間の垣根を意識しなくなり、学際的な共同研究の進展が期待され大学院教育と研究において相乗効果を生むことに繋がる。

(3) 修了要件

本研究科博士課程の修了要件は、研究科に4年以上在籍し、以下の30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。

＜共通科目＞	必修、5科目×2単位＝10単位
＜プロジェクト関連科目＞	選択必修、1科目×4単位＝4単位
＜特別演習（研究室ローテーション）＞	必修、1科目×4単位＝4単位
＜大学院特別研究Ⅰ、Ⅱ（演習、実習）＞	必修、2科目×4単位＝8単位
＜専門科目＞	選択、2科目×2単位＝4単位

合計30単位以上

(4) 体系的なコースワーク、リサーチワーク

大学院生は講義を中心としたコースワーク、研究室ローテーション及び多講座間連携研究のリサーチワークを体系的に学ぶことにより、複雑高度化する医学領域における知識と高度な研究技術を体得していく。(図5を参照)

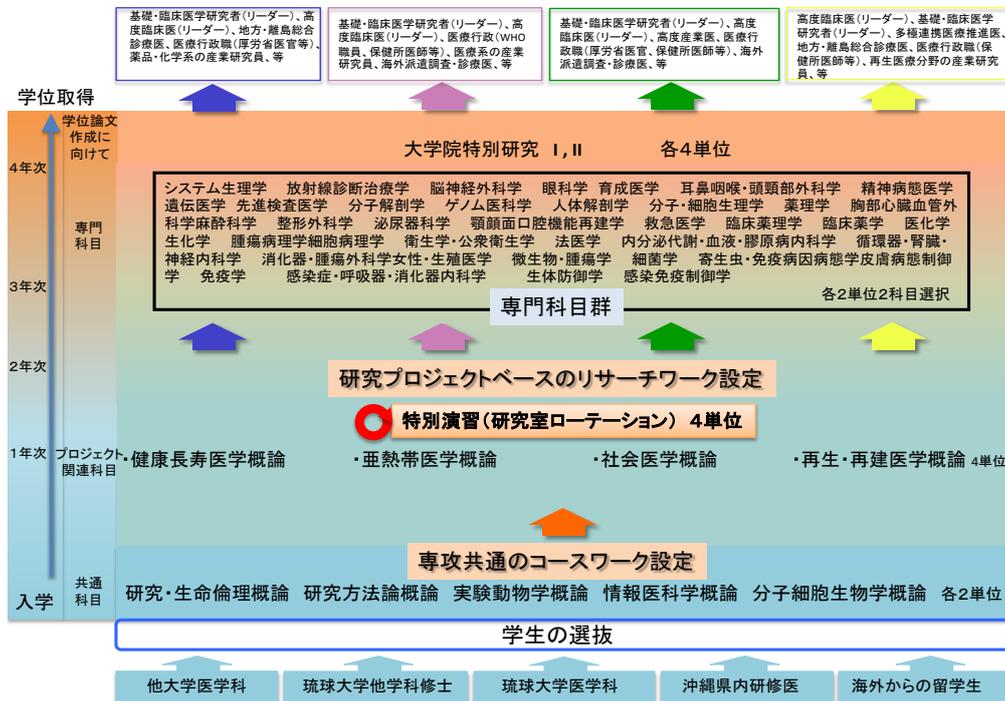


図5. 自己改新力 (self-renovation ability) と生涯持続力 (sustainability in total life) を持った優れた人材を育成

(5) 履修モデル

各コースの履修モデルを図6～9に示す。

なお、履修モデルでは、臨床的視点を持った研究者、あるいは最新の基礎医学研究に対応出来る高度臨床医を養成することを目的としている。

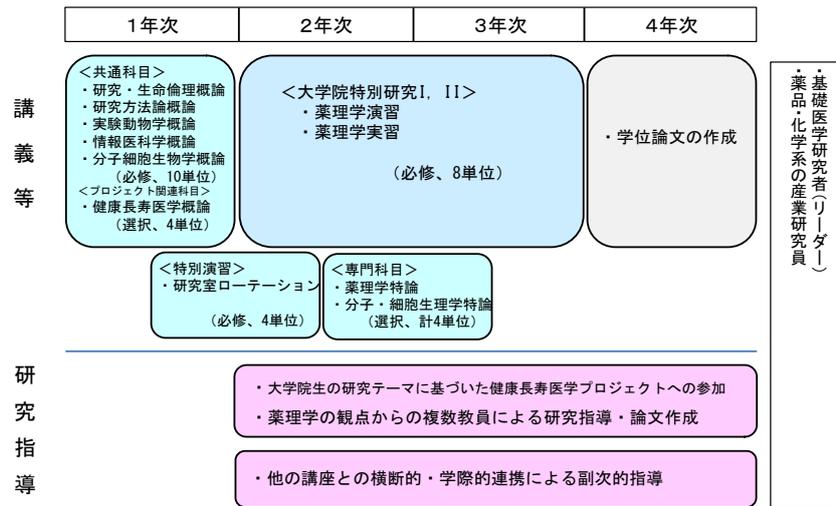


図6. 履修モデル1
薬理学に入った大学院生が健康長寿医学コースを選択した場合

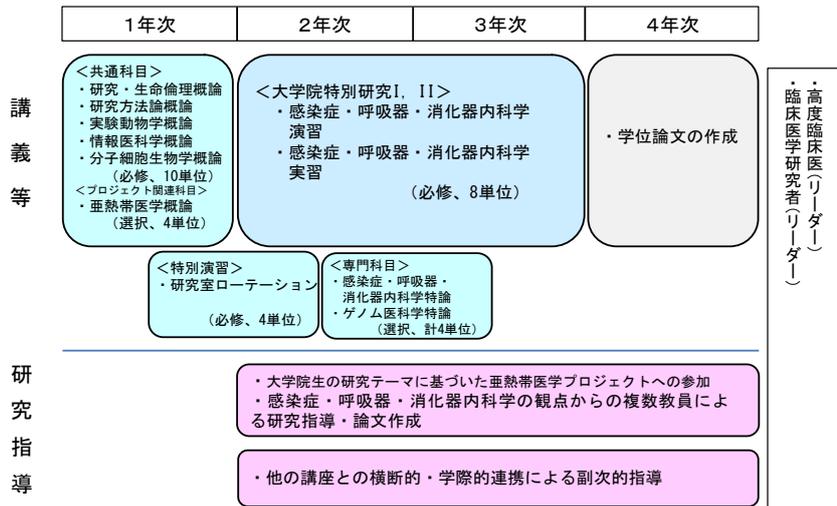


図7. 履修モデル2
感染症・呼吸器・消化器内科学に入った大学院生が
亜熱帯医学コースを選択した場合

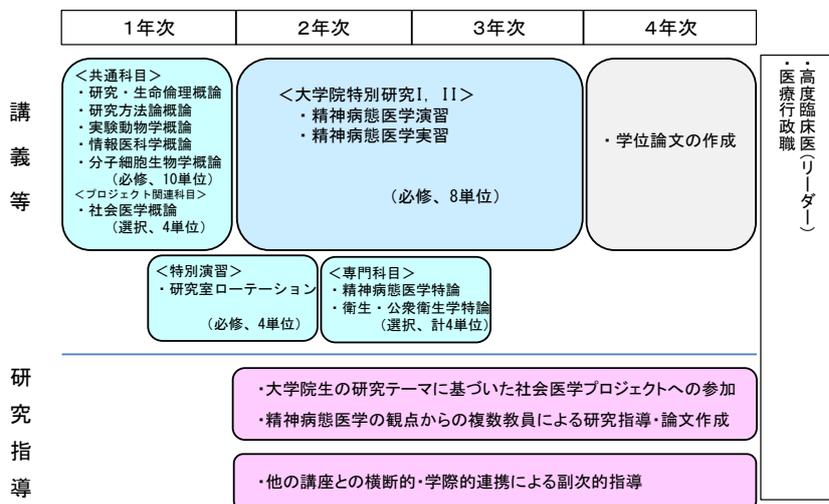


図8. 履修モデル3
精神病態医学に入った大学院生が社会医学コースを選択した場合

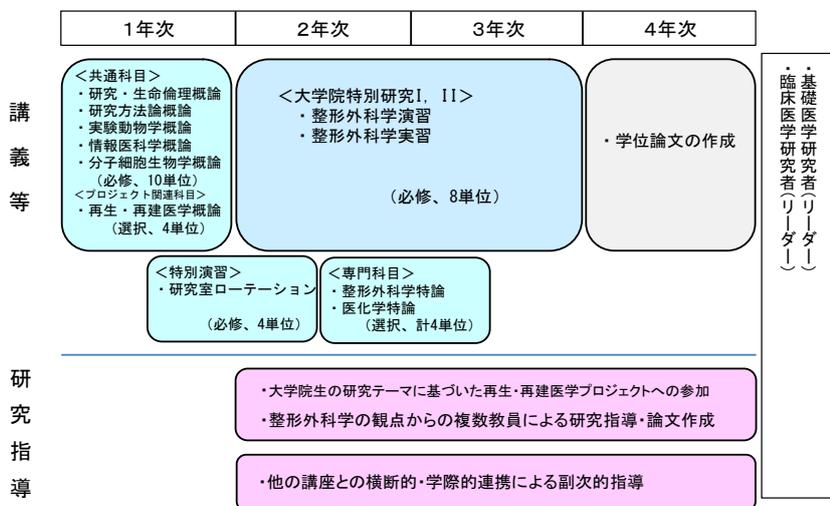


図9. 履修モデル4
整形外科学に入った大学院生が再生・再建医学コースを選択した場合

(6) 研究発表会

博士課程教育の質保証に向けて、博士課程 3 年次に研究発表会を実施する。この研究発表会において、博士論文作成に必要な基礎知識、コミュニケーション能力、研究課題の設定能力、解決方法とそれに向けた準備状況及び研究進捗状況等を、それまでのコースワーク等を通じて修得しているか否か包括的に審査する。

(7) e ラーニングシステム（社会人大学院生等のための就学上の工夫）

社会人大学院生等の就学上の工夫として、e ラーニングシステムを用いた講義を提供する。共通科目とプロジェクト関連科目において実施し、社会人大学院生等に不利益が生じないように留意して行う。以下に e ラーニングシステムの概要を示す。

- ① サーバーを用意しインターネットを利用した琉球大学教育システム Web Class とリンクさせる。
- ② 講義をビデオ撮影し、講義終了後すぐに画像をサーバーにアップする。
- ③ 大学院生はパスワードで Web Class にログインしサーバーにアクセスして講義の映像を視聴する。
- ④ 視聴後、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な双方向性の指導を併せて行い、かつ、当該講義に関する大学院生の意見交換の機会を確保する。

(8) 副指導教員制度

研究倫理教育の充実を目的として、平成 24 年度より副指導教員制度を導入した。副指導教員の役割は、分野の垣根を越えた研究指導の補助を行うことや、大学院生が研究倫理に疑問を抱いた場合、主指導教員と独立したメンターとして、随時、大学院生の相談相手になること、及び学位論文投稿前の事前審査を行うことである。この制度を継続して実施する。

(9) インターンシップ制度

大学院生の就職支援体制の確立を目的として、平成 24 年度よりインターンシップ制度を導入した。学務委員会及び医学研究科長が、大学院生が希望する企業や研究施設にインターンシップの仲介・斡旋を行って、短期間のインターンシップを実施する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【卒業要件】 研究科に4年以上在籍し、所定の30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 共通科目10単位、プロジェクト関連科目4単位、特別演習4単位、大学院特別研究Ⅰ4単位、大学院特別研究Ⅱ4単位、専門科目4単位、計30単位以上を履修すること。</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

既設の教育課程等の概要 (事前伺い)														
(医科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	研究方法論概論	1	2			○			1	3				
	実験動物学概論	1	2			○				1				
	情報医科学概論	1	2			○			1					
	生命倫理科学概論	1	4			○			10					
	先端医学概論	1	4			○			14					
	小計 (5科目)	—	14	0	0	—			22	3	0	0	0	
専門科目 (先進情報医科学コース)	システム生理学特論	1~4		2		○			1	1				
	機能生理学特論	1~4		2		○			1	1				
	システム生理学演習	1~4		4			○		1	1				
	システム生理学実習	1~4		4				○	1	1				
	画像診断学特論	1~4		2		○			1	2				
	放射線治療特論	1~4		2		○			1					
	臨床腫瘍学特論	1~4		2		○			1					
	放射線診断治療学演習	1~4		4			○		1					
	放射線診断治療学実習	1~4		4				○	1					
	脳神経外科学特論(I)	1~4		2		○			1					
	脳神経外科学特論(II)	1~4		2		○			1					
	脳神経外科学演習	1~4		4			○		1					
	脳神経外科学実習	1~4		4				○	1					
	視覚機能病態学特論	1~4		2		○			1					
	視覚器再生外科学特論	1~4		2		○			1					
	視覚機能制御学演習	1~4		4			○		1					
	視覚機能制御学実習	1~4		4				○	1					
	小児病態代謝特論	1~4		2		○			1					
	小児血液・腫瘍特論	1~4		2		○			1					
	育成医学演習	1~4		4			○		1					
	育成医学実習	1~4		4				○	1					
	頭頸部解剖・病理特論	1~4		2		○			1					
	感覚生理学特論	1~4		2		○			1					
	頭頸部病態学演習	1~4		4			○		1					
	頭頸部病態学実習	1~4		4				○	1					
	病態神経精神医学特論	1~4		2		○			1	1				
	心身医学特論	1~4		2		○			1	1				
	精神病態医学演習	1~4		4			○		1	1				
	精神病態医学実習	1~4		4				○	1	1				
	先天異常特論	1~4		2		○			1	1				
	人類遺伝学特論	1~4		2		○			1	1				
	細胞遺伝学特論	1~4		2		○			1	1				
	遺伝医学演習	1~4		4			○		1					
	遺伝医学実習	1~4		4				○	1					
	生体情報学特論	1~4		2		○			1					
	病態情報学特論	1~4		2		○				1				
	病原情報学特論	1~4		2		○			1					
	先進検査医学演習	1~4		4			○		1					
	先進検査医学実習	1~4		4				○	1					
	組織化学特論(I)	1~4		2		○			1	1				
	組織化学特論(II)	1~4		2		○			1	1				
	組織化学演習	1~4		4			○		1					
	組織化学実習	1~4		4				○	1					
ゲノム医科学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
ゲノム医科学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
ゲノム医科学演習	1~4		4			○		1	1					
ゲノム医科学実習	1~4		4				○	1	1					
医療情報学特論(I)	1~4		2		○			1						
医療情報学特論(II)	1~4		2		○			1						
医療情報学演習	1~4		4			○		1						
医療情報学実習	1~4		4				○	1						
小計 (51科目)			150						12	8	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 (機能再生医科学コース)	人体解剖学特論(Ⅰ)	1~4		2		○			1	1				
	人体解剖学特論(Ⅱ)	1~4		2		○			1	1				
	人体解剖学演習	1~4		4			○		1	1				
	人体解剖学実習	1~4		4				○	1	1				
	分子細胞生理学特論(Ⅰ)	1~4		2		○			1	1				
	分子細胞生理学特論(Ⅱ)	1~4		2		○			1	1				
	分子細胞生理学演習	1~4		4			○		1					
	分子細胞生理学実習	1~4		4				○	1	1				
	薬理学特論(Ⅰ)	1~4		2		○			1	1				
	薬理学特論(Ⅱ)	1~4		2		○			1	1				
	薬理学演習	1~4		4			○		1					
	薬理学実習	1~4		4				○	1					
	体循環異常特論	1~4		2		○			1					
	人工臓器学特論	1~4		2		○			1					
	胸部・心臓血管外科学演習	1~4		4			○			1				
	胸部・心臓血管外科学実習	1~4		4				○	1					
	侵襲制御・蘇生医学特論	1~4		2		○			1					
	生体情報解析医学特論	1~4		2		○				1				
	生体機能管理学演習	1~4		4			○		1					
	生体機能管理学実習	1~4		4				○		1				
	腫瘍疼痛制御学概論	1~4		4		○			1					
	腫瘍疼痛制御学実習	1~4		4		○			1					
	四肢病態運動器学特論	1~4		2		○			1					
	硬組織病態生理学特論	1~4		2		○			1					
	機能形態再建学演習	1~4		4			○		1					
	機能形態再建学実習	1~4		4				○	1					
	病態腎泌尿器学特論	1~4		2		○				1				
	腎移植・血液浄化療法特論	1~4		2		○			1	1				
	泌尿器腫瘍学特論	1~4		2		○			1					
	腎泌尿器外科学演習	1~4		4			○		1					
	腎泌尿器外科学実習	1~4		4				○	1					
	口腔腫瘍制御学特論	1~4		2		○			1	1				
	口腔機能再建学特論	1~4		2		○			1	1				
	顎顔面口腔機能再建学演習	1~4		4			○		1	1				
	顎顔面口腔機能再建学実習	1~4		4				○	1	1				
	災害対応特論(Ⅰ)	1~4		2		○			1	1				
	災害対応特論(Ⅱ)	1~4		2		○			1	1				
	救急医学演習	1~4		4			○		1					
	救急医学実習	1~4		4				○	1					
	循環器薬物学特論	1~4		2		○			1					
	臨床研究計画解析特論	1~4		2		○			1					
	臨床薬理学特論	1~4		2		○			1					
	循環器薬理学特論	1~4		2		○			1					
	臨床薬理学演習	1~4		4			○		1					
	臨床研究計画解析演習	1~4		4			○		1					
	臨床薬理学実習	1~4		4				○	1					
	臨床研究計画作成実習	1~4		4				○	1					
	臨床薬物動態学特論(Ⅰ)	1~4		2		○			1					
	臨床薬物動態学特論(Ⅱ)	1~4		2		○			1					
	臨床薬物動態学演習	1~4		4			○		1					
	臨床薬物動態学実習	1~4		4				○	1					
小計(51科目)				154					11	8	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (環境長寿医科学コース)	情報伝達応答学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	情報伝達応答学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	医化学演習	1~4		4			○		1	1					
	細胞生物学演習A	1~4		4			○		1						
	細胞生物学演習B	1~4		4			○		1						
	医化学実習	1~4		4				○	1	1					
	情報生物学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	情報生物学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	生物情報科学特論	1~4		2		○			1	1					
	生化学演習	1~4		4			○		1	1					
	生化学実習	1~4		4				○	1	1					
	腫瘍細胞学特論	1~4		2		○			1						
	腫瘍分子病理学特論	1~4		2		○				1					
	がんの化学予防特論	1~4		2		○			1						
	腫瘍病理学演習	1~4		4			○		1	1					
	腫瘍病理学実習	1~4		4				○	1	1					
	細胞病理学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	細胞病理学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	細胞病理学演習	1~4		4			○		1	1					
	細胞病理学実習	1~4		4				○	1	1					
	衛生学・公衆衛生学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	衛生学・公衆衛生学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	衛生学・公衆衛生学演習	1~4		4			○		1						
	衛生学・公衆衛生学実習	1~4		4				○	1						
	法医学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	法医学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	法医学演習	1~4		4			○		1	1					
	法医学実習	1~4		4				○	1	1					
	内分泌代謝学特論	1~4		2		○			1						
	生活習慣病特論	1~4		2		○			1						
	内分泌代謝学演習	1~4		4			○		1						
	生活習慣病演習	1~4		4			○		1						
	生活習慣病実習	1~4		4				○	1						
	循環病態学特論	1~4		2		○			1						
	高血圧学特論	1~4		2		○			1						
	循環器・腎臓・神経内科学演習	1~4		4			○		1						
	循環器・腎臓・神経内科学実習	1~4		4				○	1						
	消化器腫瘍学特論	1~4		2		○			1						
	消化器機能再建学特論	1~4		2		○				1					
	消化器機能調節特論	1~4		2		○				1					
	病態消化器外科学演習	1~4		4			○		1						
	病態消化器外科学実習	1~4		4				○	1						
	生殖医学特論(I)	1~4		2		○			1	1					
	生殖医学特論(II)	1~4		2		○			1	1					
	女性・生殖医学演習	1~4		4			○		1	1					
	女性・生殖医学実習	1~4		4				○	1	1					
小計(46科目)				138				10	8						
合計(153科目)			14	442	0		-	33	26	0	0	0			
学位又は称号		博士(医学)	学位又は学科の分野			医学関係									

既設の教育課程等の概要 (事前伺い)														
(感染制御医科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	研究方法論概論	1	2			○			1	3				
	実験動物学概論	1	2			○				1				
	情報医科学概論	1	2			○			1					
	生命倫理科学概論	1	4			○			10					
	先端医学概論	1	4			○			14					
	小計 (5科目)	—	14	0	0	—			22	3	0	0	0	
専門科目 (感染制御医科学コース)	微生物学・腫瘍学特論 (I)	1~4		2		○			1	1				
	微生物学・腫瘍学特論 (II)	1~4		2		○			1	1				
	微生物・腫瘍学演習	1~4		4			○		1	1				
	微生物・腫瘍学実習	1~4		4				○	1	1				
	細菌学特論 (I)	1~4		2		○			1					
	細菌学特論 (II)	1~4		2		○			1					
	細菌学演習	1~4		4			○		1					
	細菌学実習	1~4		4				○	1					
	病原寄生動物学特論 (I)	1~4		2		○			1	1				
	病原寄生動物学特論 (II)	1~4		2		○			1	1				
	病原寄生動物学演習	1~4		4			○		1					
	病原寄生動物学実習	1~4		4				○	1					
	皮膚感染症病因分析学特論	1~4		2		○			1	1				
	皮膚腫瘍予防学特論	1~4		2		○			1	1				
	皮膚病態制御学演習	1~4		4			○		1	1				
	皮膚病態制御学実習	1~4		4				○	1	1				
	免疫学特論 (I)	1~4		2		○			1	1				
	免疫学特論 (II)	1~4		2		○			1	1				
	免疫学演習	1~4		4			○		1	1				
	免疫学実習	1~4		4				○	1	1				
	臨床感染制御学特論	1~4		2		○			1					
	臨床感染症学演習	1~4		4			○		1					
	臨床感染症学実習	1~4		4				○	1					
	生体防御学特論 (I)	1~4		2		○			1	2				
	生体防御学特論 (II)	1~4		2		○			1	2				
	生体防御学演習	1~4		4			○		1	2				
	生体防御学実習	1~4		4				○	1	2				
	感染免疫制御学特論	1~4		2		○			1					
	感染免疫制御学演習	1~4		4			○		1					
	感染免疫制御学実習	1~4		4				○	1					
小計 (30科目)				92	0	—			8	6	0	0	0	
合計 (35科目)			14	92	0	—			8	6	0	0	0	
学位又は称号		博士 (医学)			学位又は学科の分野			医学関係						